

授業科目名 (英文名)	生命論 (The Philosophy of Life)	科目区分 対象学生	
単位数	2.0	開講年次・ 学期	3
担当教員	丸橋 裕	所属	看護学部 哲学系
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>本講義の目的は、生まれ、老い、病み、死にゆく生命、自然的・社会的関係の中でよりよく生きようとする生命の充実を問題にし、「病む人」の現象学的な現実可能なかぎり寄りそいながら、そのような全一的生命の本質を人間学的な医学の観点から問い直すことにあります。到達目標とDPとの関連は、以下の4点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主体としての生命について考え、説明することができる (DP1)。 2. 生命科学や医療の現場において日々生じてくる生命倫理の諸問題について考え、対話・討論するためのプレゼンテーションをすることができる (DP2)。 3. 全一的な生命に関する諸問題についてさまざまな観点から対話し、実践に結びつけることができる (DP4)。 4. 自分自身が最も関心を寄せる「生と死」の問題について人間学的医学の観点から考察し、その考えを最終レポートにまとめることができる (DP8)。 		
講義内容・授業計画	<p>序 「病む人」の抑圧と現代 人間学的医学への道 医学と哲学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 死という謎 「病い」への向かい方 2 生命観と医療の歴史 3 生命とは何か 4 生命倫理の誕生と現実 誕生をめぐる謎 1 出生前診断と人工妊娠中絶 2 生殖補助医療技術と代理母 3 胎児とは誰のことか 4 内なる優生主義は克服できるか 死をめぐる謎 1 脳死と臓器移植 2 安楽死と治療停止 3 「生きるに値しないひと」は存在するか 4 死という謎 私という存在をめぐる不安 医学的人間学の可能性 1 原場面 窮境と癒し 2 医学的人間学とは何か 3 人間学的医療への道 <p>むすび</p>		
テキスト	小林亜津子『看護のための生命倫理 [改訂版]』(ナカニシヤ出版、2010)		
参考文献	黒崎剛/野村俊明編『生命倫理の教科書』(ミネルヴァ書房) V・v・ヴァイツゼカー『病いと人』(新曜社) 木村敏『臨床哲学講義』(創元社)		
成績評価の基準・方法	履修者によるプレゼンテーション(30%)、グループ対話・討論(10%)、ミニ・レポート(2回:20%)と、最終レポート(40%)によって総合評価します。		
履修上の注意・履修要件	グループによる対話を重要な要素としています。また、履修者数により、ゼミ形式をとる場合もあります。楽しく、そして真剣に語り合ひましょう。		
実践的教育	該当しません。		
備考			